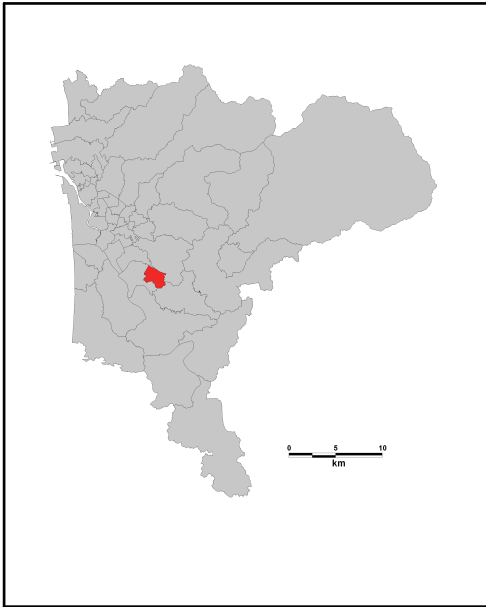
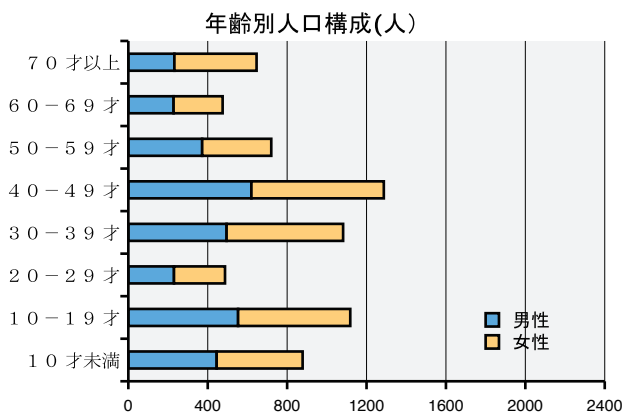


位置図



1 居住者の現況

| | |
|-------------|-------|
| 人口(人) | 6,693 |
| 世帯数(世帯) | 2,387 |
| 65歳以上人口(人) | 871 |
| 65歳以上世帯(世帯) | 397 |
| 5歳未満人口(人) | 355 |



2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

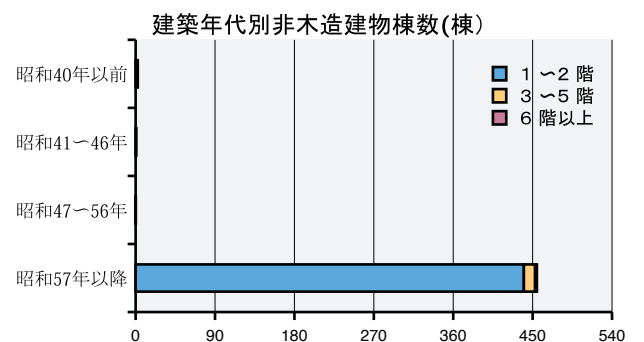
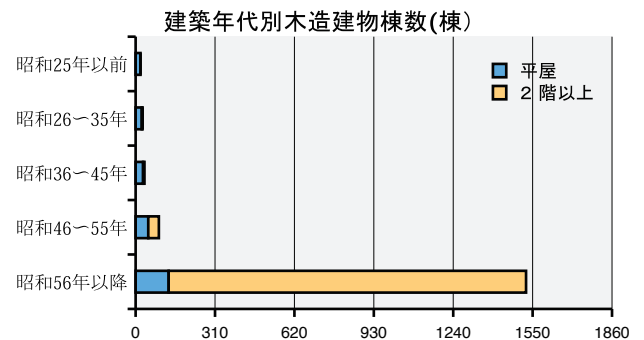
| | |
|-------|-------|
| 木造建物 | 1,696 |
| 非木造建物 | 458 |
| 合計 | 2,154 |

■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

| 建築年 | 平屋 | 2階以上 |
|-------------|-----|-------|
| 昭和56年以降 | 129 | 1,395 |
| 昭和46年～昭和55年 | 49 | 41 |
| 昭和36年～昭和45年 | 29 | 5 |
| 昭和26年～昭和35年 | 24 | 3 |
| 昭和25年以前 | 19 | 0 |

■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

| 建築年 | 1～2階 | 3～5階 | 6階以上 |
|-------------|------|------|------|
| 昭和57年以降 | 440 | 13 | 2 |
| 昭和47年～昭和56年 | 0 | 0 | 0 |
| 昭和41年～昭和46年 | 1 | 0 | 0 |
| 昭和40年以前 | 2 | 0 | 0 |



自然的・社会的基本指標

岩見川下流部右岸(北側)の低丘陵地に開発された住宅地を中心とする区域である。急傾斜地危険箇所が1箇所指定されている。人口構成として、30歳台～40歳台および20歳未満にピークがある。65歳以上の高齢者層は13%となっており、秋田市域では最低の比率である。建築物の92%は昭和56年以降に建築された建物であり、木造(2階建て以上)建物および低層の非木造建築物がその大半を占める。

3 急傾斜地等の現況

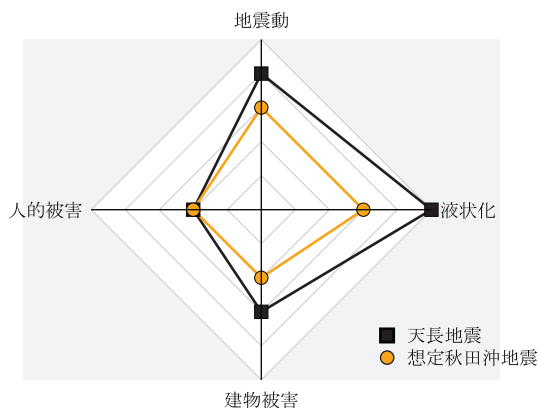
| 指定種別(箇所数) | 箇所名 |
|---------------|--------|
| 急傾斜地崩壊危険箇所(1) | 大杉沢 |
| なだれ危険箇所(0) | 該当箇所なし |
| 地すべり危険箇所(0) | 該当箇所なし |
| 土石流危険渓流(0) | 該当箇所なし |

4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

■ 被害想定結果一覧表

| | 天長地震 | 想定秋田沖地震 |
|-------------|------|---------|
| 平均震度 | 6弱 | 5強 |
| 液状化危険度 | ランク5 | ランク3 |
| 木造建物大破数(棟) | 46 | 5 |
| 非木造建物大破数(棟) | 8 | 1 |
| 死者数(人) | 4 | 0 |

被害想定結果レーダーチャート



レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度は6弱となる。南部で、液状化する可能性がかなり高い。建物の大破被害は50棟程度、死者が発生する可能性がある。

想定秋田沖地震では、平均震度は5強となり、南部の一部で液状化する可能性がかなり高い。数棟程度の建物大破被害が発生する。死者が発生する可能性は低いものと想定される。

津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られる。

5 防火・防災施設に関する指標

■ 消防関連施設

| | |
|-----------|-----|
| 消火栓数(箇所) | 110 |
| 防火水槽(箇所) | 14 |
| 消防車台数(台) | 4 |
| 消防ポンプ数(台) | 0 |
| 消防団員数(人) | 60 |

■ 避難所/避難場所

| 避難所/避難場所 | 屋内/屋外 | 収容人員(人) |
|-------------|-------|---------|
| 御所野小学校 | 屋内 | 419 |
| 御所野学院中学校 | 屋内 | 477 |
| 御所野学院高校 | 屋内 | 396 |
| 御所野小学校グラウンド | 屋外 | 5,550 |
| 御所野学院グラウンド | 屋外 | 12,300 |

■ 救急・防災関連施設

| 種別 | 名称/箇所数 |
|-----------|---------|
| 管轄消防署 | 秋田南消防署 |
| 管轄警察署 | 秋田東警察署 |
| 病院数 | 4 |
| 最寄の救急告示病院 | 秋田赤十字病院 |
| 自主防災組織数 | 13 |

■ 学校区内の主要な公共施設

| 施設名 | 住所 |
|-----|----|
| - | - |

防災上の課題と対策

御所野小学校区は、国道13号とJR奥羽線にはさまれた丘陵地帯に造成された住宅地と南部の低平地に広がる農用集落からなっている。建物のほとんどが、新耐震建築物である。人口は、秋田市内でもっとも近年の増加度合いが高い。そのため、人口構成も30歳～40歳台および20歳未満の占める割合が高く、市内でも特異な構成となっている。避難場所(屋外)と避難所(屋内)はともに住宅地の中心部に配置されており、避難所の収容人員は全人口の約19%程度となっている。JR奥羽線以南の区域には避難施設がなく、避難距離が長くなっている。人口が新たに急増している地区であることから、防災情報・知識の周知に加え、地域の協同・相互補助の体制の醸成・強化を図るよう働きかけていく必要がある。地域の特性を考慮した避難訓練等を実施することが有効であると考えられる。